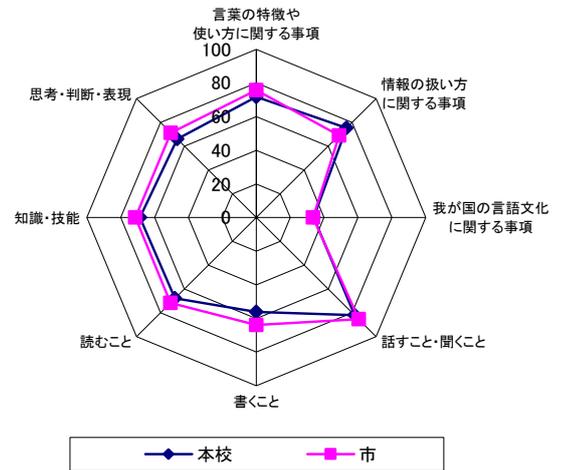


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.8	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	75.4	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	33.8	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	82.1	85.5	86.5
	書くこと	56.2	63.9	65.8
	読むこと	67.9	71.6	69.5
観点別	知識・技能	68.7	71.3	72.9
	思考・判断・表現	66.1	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

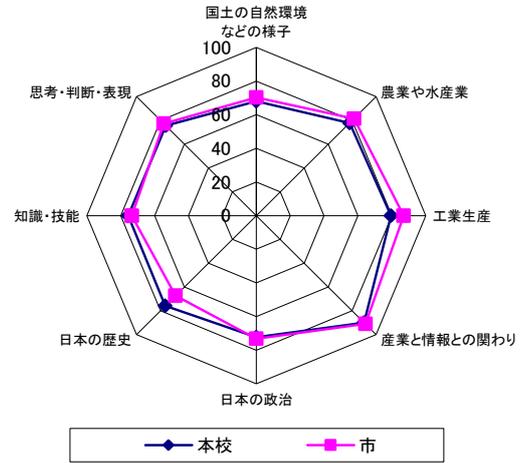
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は71.8%で、市平均より4ポイント下回った。 ○「三字の熟語の成り立ちについて理解している」という問題では、平均正答率は市平均より8.2ポイント上回った。 ●「第5学年に配当されている漢字を正しく書く」問題では、平均正答率は市平均より17.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字ドリルやAIDドリルを活用した漢字練習を今後も計画的に実施し、漢字を正確に書く力や読む力の定着を図っていく。 ・文章を書く活動などで、漢字を正しく文脈に沿って使用できるよう指導していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は75.4%で、市平均より6.3ポイント上回った。 ○「原因と結果など情報と情報の関係について理解している」問題では、平均正答率は市平均より6.3ポイント上回った。	・国語のみならず、他教科においても目的に応じ、集めた情報を分類したり関連づけたりしながら自分の考えを文章にまとめる活動を意識的に設けることで、情報活用能力や文章表現力を今後も高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は33.8%で、市平均と同程度である。 ○「語句の由来に関心を持ち、和語、漢語、外来語について理解している」という問題では、平均正答率は市平均よりと同程度であった。	・和語、漢語、外来語について関連する本を紹介して調べ学習に取り組みせたり、ビブリオバトルを行わせたりする。また、ことわざや慣用句、故事成語などを用いて文を作る活動を取り入れるようにし、言語文化への興味・関心を深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は82.1%で、市平均より3.4ポイント下回った。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える」問題では、平均正答率は市平均より3.6ポイント下回った。	・様々な学習の場面で学び合いを設定していく。また、意図に応じて質問を工夫し、分かったことをまとめ表現する活動を多く取り入れていく。 ・学習活動全体において、相手の話を正確に聞き取ったり、自分の考えを表現したりできるよう話し合い活動を意識していく。
書くこと	平均正答率は56.2%で、市平均より7.7ポイント下回った。 ●「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする」問題では、平均正答率は市平均より8.7ポイント下回った。 ●「文章全体の構成や展開を考える」問題では、平均正答率は市平均より15ポイント下回った。	・ねらいを明確にして文章を書かせるだけでなく、より意図が伝わる表現方法を工夫させたり、字数制限を設けたりすることで簡潔に伝える文章を書く活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は67.9%で、市平均より3.7ポイント下回った。 ●「物語の全体像を具体的に想像する」問題では、平均正答率は市平均より6.2ポイント下回った。 ●「目的に応じて、文章の情報を整理をする」問題では、平均正答率は市平均より9.4ポイント下回った。	・物語については、登場人物や中心人物についての描写に着目しながら、教材文を読み取っていく。 ・段落の要点を明確にししながら、段落同士を比較して考えられるようにする。また、簡潔な文章でまとめられるよう、文章を再構成する活動を取り入れていく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.0	70.3	66.4
	農業や水産業	77.9	81.6	75.3
	工業生産	79.5	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	90.0	91.0	81.3
	日本の政治	72.3	73.2	75.3
	日本の歴史	76.0	67.4	68.5
観点別	知識・技能	75.6	73.5	72.5
	思考・判断・表現	75.6	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

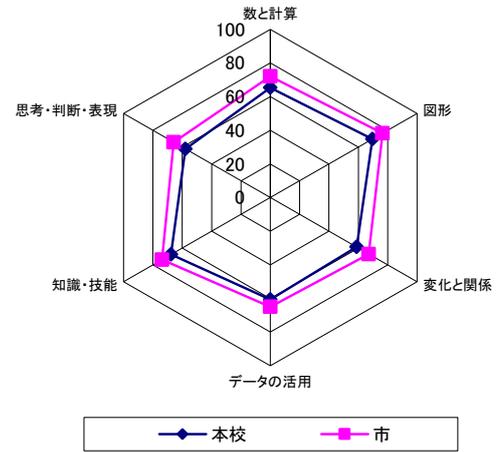
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は68.0%で、市の平均より2.3ポイント下回った。 ○赤道についての理解の設問については、市の平均を4.5ポイント上回った。 ○自然災害の発生場所についての理解の設問では、市の平均と同程度である。 ●人工林の役割についての理解の設問では、市の平均を7.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本周辺の海洋や気候などについて地図帳を活用し、国や領土を確認しながら学習内容と関連付けて理解を深めていく。
農業や水産業	平均正答率は77.9%で、市の平均より3.7ポイント下回った。 ○魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断する設問においては、市の平均と同程度だった。 ●米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取る設問においては、9.4ポイント下回った。	・資料集や一人一台端末を活用して、まとめ学習に取り組むことで、資料や図を読み取る力や書く力を付けていく。
工業生産	平均正答率は、79.5%で、市の平均を7.5ポイント下回った。 ●日本の貿易の変化について、資料をもとに表現している設問においては、17.4ポイントと大きく下回った。	・AIDリルに繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る。自動車工場の作業工程や貿易関連の映像資料を活用し、興味関心をより高めていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は90.0%で、市の平均と同程度だった。 ○情報を生かした産業について考える設問では、市の平均と同程度であった。	・身近な日常生活と関連させて興味関心をもって学習に取り組むことで、社会を支える情報の重要性の理解を深めていく。
日本の政治	平均正答率は72.3%で、市の平均と同程度だった。 ○基本的人権の尊重についての設問においては、正答率が17.4ポイント市の平均を上回った。	・資料を読み取り、グループで自分の考えを伝え合う活動を取り入れる。また、時事的な話題を取り入れながら、興味関心を高めていく。
日本の歴史	平均正答率は76.0%で、市の平均を8.6ポイント上回った。 ○縄文時代～平安時代についての設問全てにおいては、14ポイント以上市の平均を上回った。安土城桃山時代、江戸時代についての設問に関しても市の平均を上回った。 ●鎌倉時代の政治の仕組みについて、資料を読み取る設問においては、市の平均を4.5ポイント下回った。	・苦手な単元においてAIDリルの問題に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る。また、定期的な復習の時間を設ける。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.3	72.1	74.6
	図形	69.6	76.5	76.1
	変化と関係	58.8	67.1	59.7
	データの活用	60.6	65.0	64.5
観点別	知識・技能	67.7	73.8	74.7
	思考・判断・表現	57.8	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

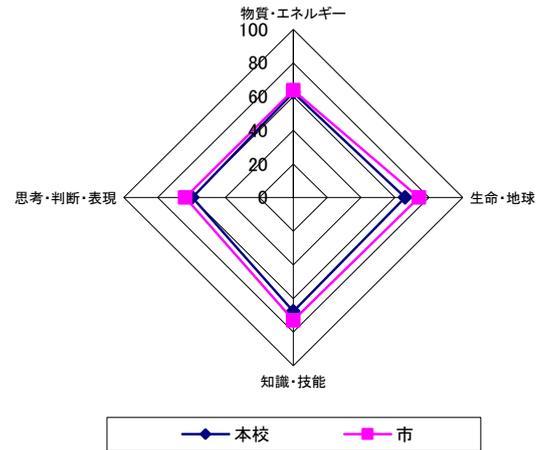
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は65.3%で、市平均より6.8ポイント下回った。</p> <p>○「比較量、基準量が分数の場面において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ」問題では平均正答率が市の平均と同程度であった。</p> <p>●「文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す」問題では平均正答率が市の平均を26.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題については、朝の時間や家庭学習などで計算ドリルやAIDドリルを活用し、今後も継続的に、繰り返し行うことで更に定着を図っていく。 ・公式に当てはめるだけでなく、問題場面を図で表すなどの活動を意識的に取り入れ、式の持つ意味を正しく理解した上で立式できる力を養っていく。
図形	<p>平均正答率は69.6%で、市平均より6.9ポイント下回った。</p> <p>○「線対称な図形の対応する点について理解しているか」の問題では、平均正答率が市平均を4.3ポイント上回った。</p> <p>●「平行四辺形の面積を求める式を理解しているか」の問題では、平均正答率が市平均を18.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対称な図形の学習では、操作的な活動に併せてICTを活用し、図形を折ったり、回転するとどうなるかを感覚的・視覚的に捉えさせることを丁寧に行っていく。 ・平行四辺形の面積を求める等の問題は、プリント学習やAIDドリルを繰り返し行い習熟を図りたい。
変化と関係	<p>平均正答率は58.8%で、市平均より8.3ポイント下回った。</p> <p>○「速さと時間から、道のりを求める」問題では、平均正答率が市の平均と同程度であった。</p> <p>●「基準量と割合から比較量を求める」問題では、平均正答率が市平均を12.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に速さに関する練習問題を行ったり、数直線や図を使ったりして立式できるよう指導していき、習熟をはかった結果が表れ始めていると考えられる。 ・比較量を求める問題では、式の意味を問題場面や図と関連付けて考えさせ、比較量と基準量、割合の意味や表し方についての理解を深めていく。
データの活用	<p>平均正答率は60.6%で、市平均より4.4ポイント下回った。</p> <p>●「円グラフを正しく読み取る」問題では、平均正答率が市平均を2.9ポイント下回った。</p> <p>●「度数分布表を完成させる」問題では、平均正答率が市平均を5.7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データの見方に関する用語とその意味、その数値の出し方をセットで覚えることが必要である。さらに目的を明確にし、自分の考えを明らかにして文章で表現する活動や、相手が納得できるように筋道を立てて説明する場を設けていく。 ・円グラフの読み取りについてはプリント学習やAIDドリルを繰り返し行い習熟を図っていく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.4	63.8	61.6
	生命・地球	66.0	74.1	73.3
観点別	知識・技能	67.7	73.0	71.3
	思考・判断・表現	59.6	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は62.4%で、市平均と同程度であった。</p> <p>○「ごみ処理場での電磁石の利用方法から、電磁石の性質を指摘する」問題では、平均正答率が市平均を11.8ポイント上回った。</p> <p>●「蒸発させたときに何も残らなかった水溶液は、気体が溶けていることを理解しているか」を問う問題では、平均正答率が市平均を9.9ポイント下回った。</p>	<p>・一人一人の学習の進捗を確認しながら調べ学習やデータを読み取る学習の時間を十分に確保したい。また、共通の体験をもとに話し合い、実験を行う意味や目的、結果から導き出される考察などを考える時間を共有するなど、学びを深める活動を取り入れていきたい。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は66.0%で、市平均よりも8.1ポイント下回った。</p> <p>○「葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考える」問題では、市平均と同程度であった。</p> <p>●「仮説を確かめる実験を構想する」問題では、平均正答率が市平均を19.2ポイント下回った。</p>	<p>・実験を行う理由やその条件などを丁寧に確認し、正確に実験結果をまとめられるようにしていく。また、一人一人がより多くの実験や観察に取り組めるように活動を設定し、学びを深められるようにしていく。</p>